



- ◇特集 この夏読みたい本、
すすめたい本
- ◇Voice レファレンス・サー
ビスを利用して
- ◇Report けやき総会・図書
館懇談会

■ 特集 ■

この夏に読みたい本、すすめたい本

3月の大震災以降、本を読める環境があることの大切さに改めて気付かされた、本が力になった、読書でほっとできた、という声を聞きます。震災に加えて原発事故の被害に直面するこの夏、それぞれの立場でものを思うことが多い夏となりました。そこで今、読みたい本、すすめたい本をけやき会員が紹介します。(次頁より)

■ TOPICS ■

左京図書館こども読書の日記念 おたのしみ会・吹奏楽コンサート 4月23日

4月23日(土)の午前中に左京図書館がある左京合同福祉センター3階会議室でおたのしみ会を実施、同じ日の午後には1階老人福祉センターホールで下鴨中学校吹奏楽部による吹奏楽コンサートが行われ、どちらも多数の参加者で大盛況でした。

おたのしみ会は、百万遍保育園の先生方による大型絵本の読み語りや子どもたちと掛け合いの手遊びにはじまり、養正保育所・鶴山保育所・錦林保育所の先生方は手袋ダンスに大型絵本・エプロンシアターとテーブルシアター、さらに修学院小学校PTAサークルおはなしきら隊のお母さんたちによる大型絵本とばばあちゃんのブラックパネルシアター。盛り沢山のプログラムで子どもたちは大満足の様子でした。

久しぶりの吹奏楽コンサートも、幼児から高齢の方々まで様々な年齢層の聴衆が、中学生が熱演するお馴染みの曲や吹奏楽の名曲に熱心に耳を傾けました。

300冊の絵本に囲まれて えほんのひろば in きょうと 4月23、24日

今年も「えほんのひろばinきょうと」を4月23、24日の2日間開催しました。会場いっぱい20数台の面展台を置き、その上に色々な表紙を見せて、約300冊の絵本がにぎやかに並びました。

昨年同様「みんなでわいわい」「リズムにのって」「いのちってなに」「じわ〜とそういうことだったのか」「くすつとガハハと笑ってみたい」等々に分けて展示しました。子どもも大人もいろんな本に出会って、楽しんでもらいたいと選ばれた絵本たちです。

えほんのひろばに足を踏み入れた人たちはまず「わあ、絵本がいっぱい！」と漏らし、それから思い思いに本を手にとっていました。こんどは何にしようかなと、忙しく面展台の間を動き回る男の子や、会場のボランティアに何冊も読んでもらい、親子で聞いて楽しむ姿が印象的でした。

でも、ひろばの本は借りられない為、階下の図書館に行ってしまった子がいました。子どもはやっぱり、その場で借りたいんですね。来年の検討課題です。



けやき会員による この夏に読みたい本、すすめたい本

父と暮せば

井上ひさし著 新潮社 1998年

夏は、人間の生き死について考えを巡らせる機会が多くなります。今年の夏は震災と原発事故があり、とりわけです。

そんなときにこの本に出会いました。井上ひさしの戯曲「父と暮せば」。時代は1948年。場所は広島。原爆を生き延びた娘・美津江は図書館員として働いている。一人の青年に恋心を抱くが、前に進むことができない。それは目の前で死んでいった親友たちに対して「自分だけが幸せになるのは申し訳ない」と考えるから。

そんな娘に対して、やはり原爆の犠牲になった父親が亡霊となって、娘を応援するためにでてくる…。

登場人物は美津江と父の亡霊の二人。全編広島弁の会話でなりたっている。ほのかなユーモアの中に、著者が集めたという被爆者たちの言葉がちりばめられ、読む者ははっとさせる。父の説得に、かたくなだった美津江の心が徐々に解放されていく…。

重い主題を深刻ぶることなく、読む者の心に沁みいるように静かに訴えかけてきます。

この名作の存在は、一般にあまり知られていない気がします。もっと多くの方によんでいただきたい作品です。

尚、この戯曲は、宮沢りえ、原田芳雄主演で映画化されているようです。(私はまだみていません。) また珍しいことに、英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、ロシア語など各国語に翻訳された対訳本が出ていますので、語学の学習にも参考になるのではないかと思います。

(A. I)



ほほえみにはほほえみ

川崎洋著 童話屋 1998年

2011年3月13日、震災の2日後に娘は生まれた。まだ人見知りもなく、愛想よしの彼女は、バギーを覗き込む見知らぬ人や、ご近所の方につこりと微笑む。すると皆さん一様に「笑ってくれるのー」とおっしゃる。憧れの人でも、アイドルでもないのに「笑ってもらえた」と人に思わせる赤ちゃんの笑顔、すごい



い威力である。

「ビールには枝豆」から始まる川崎洋さんの詩『ほほえみ』は、14の「AにはB」という組み合わせが並べられている。そして最後に1行あけて「ほほえみにはほほえみ」。確かにそうだ。相手が微笑めば、自分も微笑む。自分が微笑めば、相手も微笑む。

そして次に取められている『地下水』では、「…笑い顔をつくる事ができます でも ほほえみはつくれません ほほえみは気持ちの奥から自然に湧いてくる泉ですから…」という。赤ちゃんのほほえみ、その純度の高さが、見知らぬ人のほほえみを軽々と引き出していく。

川崎洋さんの詩は、あたたかい。新聞に寄せられた子どもの詩の選と寸評を長くされていたが、詩そのものより、川崎さんが添えたひとことを読んで涙腺がゆるむ。方言詩も多く、こどもを、人を、日本を愛しておられたのだろう。

出産後、暖かい病室のベッドの上で、生まれたばかりの娘を横に、ニュースを見た。自分とテレビの向こうの世界のギャップの大きさに、何が現実なのか分からなくなった。でも、このタイミングで生まれてきた娘の存在が、大きな災害を乗り越えていくための、小さいけれど確実にひとつの力であるように思えた。「ほほえみにはほほえみ」。足元から小さな幸せが広がっていくといい。

(澤田垂希子)

からくりからくさ

梨木香歩著 新潮社 1999年

一人暮らしの祖母が亡くなり、祖母が残した古い家に、孫の蓉子ら4人の女性が共同生活を始める。植物で糸を染める蓉子、アメリカから鍼灸の勉強のために日本へ来ているマーガレット、機を織る紀久、キリムという中近東の遊牧民の織物の世界観を体感したい与希子。ふしぎな人形「りかさん」も加わり、機織りに込める思い、世界中でみられる、からくさのような模様について触れながら、命のつながり、絆を伝える物語。

その家は、祖母が慈しむように糠やおからを入れた袋でみがき、廊下や柱はしっとりとした照りがでている。祖母という実体がいなくなっても、家は祖母の気配を忘れていない。

蓉子は、ぞうきんを絞った後、手の水分をしっかり拭

く。これは祖母の教え。「どうせ濡れるのだからと、ずぼらをしてはいけない。濡れた手を風に当てるのが1番いけない。1度1度しっかりと水気を拭き取れば、あかぎれなどはできません。」

食べ物でも、青シソを薬味として使った後、実は塩漬けにし、あとは根っこごと抜いて、干してお茶にする。蓉子の、物を大切に、命を育んだり、慈しんだりする暮らしに、はっとさせられる。ああそうだったなあ、でも...という懐かしさと、寂しさを感じながら読んだ。私は、よいことを、ちゃんと残していけるだろうか。

この本は、震災の後、もう1度読みたいと思った本です。今回読みなおしてみても、前は気に留めず読んでしまったこんな会話がありました。

蓉子と紀久が話しています。
「昔は500年単位で起こっていた以上の生活の変化が、ここ十何年で次々に起こっている。」蓉子はある人の言葉を思い出した「変化が起きるときは犠牲が要る。」
「この変化は地球規模の変化だから、犠牲がいるとしたらそれもそういう規模のものになるのかしら。」

(田中直子)

光草～ストラリスコ～

ロベルト・ピウミーニ作 長野徹訳
小峰書店 1998年

自分の愛書を書店で見かけると、背表紙を前の方に引っ張り出して小さなアピールをすることはありますか。この本はそんなことをしてしまう、私が大切にしているとおきの一冊です。

外気や日光にふれることの出来ない難病の少年は領主館の奥で閉ざされた生活を余儀なくされていました。息子を不憫に思っている父親は彼の11歳の誕生日の贈り物として、風景画の大家である高名な画家を館に招きます。少年の三つの部屋の壁一面に絵を描いて、外の世界を知らない息子を慰めようというのです。

こうして心の中の風景を描くことによって二人の旅は始まりました。

壁画は山脈(やまなみ)から始まり、農夫の小屋のある谷間から村へと進みやがて戦乱の町へと入り、海の部屋へと移ります。水平線にははためく帆を上げた海賊船が大海原を走る。続く三つめの部屋には草原が広がっている。時間の経過とともに草が伸び、つぼみは花を咲かせる。少年が画家を手伝って描き入れた黄金色の穂はストラリスコ。晴れ渡った夜に蛍のように輝く光の草。

二人は壁面を彩るごとに物語を紡ぎ想像と創造の喜びを共有し、年の差を超えた友情を育んでいきます。それはいのちの輝き、まさに少年と画家のストラリスコ、光草です。ついに少年ははかない命を終えることになるのですが、画家の心にも、私たち読者の心にも消えることのない静かな灯火をともしてくれていたのです。

最期に、堀川理万子さんの表紙絵は詩情豊かな本書にぴったりで、静かで暖かい血潮が感じられ大いに想像力を駆り立ててくれます。
(山本ゆみ)

ある小さなスズメ の記録

人を慰め、愛し、叱った、
誇り高きクラレンスの生涯
クレア・キップス著 梨木香歩訳
文藝春秋 2010年

1940年、戦時下のロンドンの自宅玄関前で、著者は生まれたばかりの瀕死のイエスズメ(訳者によると日本の一般的なスズメとは異なる種)を発見する。のちにクラレンスと名付けられたこのスズメは、右翼と左足に障害があったため野に返すことはできず、12年余り後に天寿を全うするまで、著者と共に暮らすことになる。両者の関係は、「飼い主と愛玩動物」というより「共同生活者」と呼ぶのがふさわしい。この本は、その「共同生活者」たるクラレンスの生涯を、著者の愛情溢れかつ感情を知性で巧みにコントロールした鋭い観察眼で、克明に記したものである。

このクラレンスの成長記録は鳥の研究者にとっても十分価値のある貴重な観察記録であるだろうが、この小さな生き物が生涯を通して貫いた「生きる」ことへの前向きかつ真摯な姿は、どの読む者の心にも強く響く。まず、クラレンスの豊かな感情表現に目を見張る。はっきりと自己主張し、驚くことに著者への気遣いも見せる。様々な芸を覚えて著者の友人たちの戦時下の息苦しい生活に安らぎを与えたり、毎朝ピアニストの著者の演奏を聴き続けた影響がスズメにはありえないような素晴らしい歌声を聞かせたり。私が最も惹きつけられたのは、晩年脳卒中を患ってもなおより自分らしく生きるために闘う姿。「死が訪れるまでいかに生きるか」、クラレンスは一つの有り様を教えてくれる。読む者それぞれの「生きる」ことについての思いに、光をくれる本である。



A5版の小さなこの本は、最近では珍しい箱入り。装丁も装画も出しゃばらず品良く美しく、手に取るのがうれしい本である。電子化されたらこの楽しみはどうなるの？といったも思ってしまうのだが...

原題：Sold for a Farthing 1953年発行 (永井麻里)

絵で読む 広島原爆

那須正幹文 西村繁男絵 福音館書店 1995年

子どもたちに絶大な人気を博したシリーズ読み物『ズッコケ三人組』の作者である那須正幹さんは、のんきな楽しい人のように思っていたが、自らは被爆者で折り鶴の少女像で知られる佐々木禎子さんと同世代の子どもでした。禎子さんは2歳、那須さんは3歳のときに原爆にあっています。被爆10年後に禎子さんは白血病で亡くなりますが、那須さんにとってそれは決して人ごとではなかったのだと思います。クラスメイト達がつくった「原爆の子の像」について克明に記録したノンフィクション『折り鶴の子どもたち』（PHP研究所 84年）も書いています。

そしてこの大きな絵本『広島原爆』は1995年、戦後50年の節目の年に出版されました。“一家に一冊”備えてほしい、と思う本です。企画の提案から6年の歳月をかけ、個人の被爆体験にとどまらない「市内全体の被爆状況、原爆の原理、開発や投下にいたる歴史的経緯、また被爆以後をも網羅するような」科学絵本。その困難な仕事は画家の西村繁男さんとのコラボで実現しました。

西村さんはベトナム反戦路上ポスター展に絵を出品するような若者だった頃、広島での出会いがあり原爆への関心を持ち続けていました。絵本制作の為に1年近く広島に住み、「戦前から戦後までの広島町の町並みを正確に再現するため、資料や証言者を訪ねまわり、その後も何度となく足を運んでより克明な絵に仕上げるために長い時間をかけました。もうほんとに、この絵は読むしかありません！絵がいろんなことを語ってきます。

そして那須さんは科学的に冷静に、自分たちの上によりそそいだものの正体を見つめるべく原爆について調べ丁寧に解説しています。核がいかに危険なものか、戦争がその研究を推し進め、作り出し、そして使用した、そのことの意味、また戦後も続く核実験。生きのびた人の戦後。これらは今起きている原発事故を考えるにも大変役立つのではないのでしょうか。

原爆を作るのも人間、廃墟から立ち上がり生き続けるの

も人間、この危険なものの意味を知り廃絶にむけて働きかけるのも人間です。最後の8ページにもわたる核をめぐる年表の中のあちこちで手をつなぎ、プラカードをかかげ、署名をする人々が希望です。(文中「」はあとがきより)

(後藤由美子)



地球はえらい

城雄二案 香原知志文 松岡達英絵 福音館書店 1996年

地球はえらいのである。エコだ何だと人間がなんとかしなくても、地球はたぶん大丈夫。

大丈夫じゃないのは人間なのだ。

今さら、原始的生活をしよう！とは言わない。

だけど「ある程度でよし！」というところで満足しようよ、と思う。

我ら人間は、地球さんの上に住まわせていただいている、たくさんの生き物のうちの一人である。

道ばたのたんぼぼさんや雀ちゃんは、地球アパート(?)に住む、いわばお隣さんという間柄だ。

この本を読むと今さらながら、そのことを再認識する。

中でも地球の歴史を、1年のカレンダーに置き換えてみた図がおもしろい。

1月1日に誕生した地球に、ヒトの祖先が生まれたのは12月31日夜8時、今のような文明を持ち始めたのは11時59分というのだから、われら人間の歴史たるやなんとちっぽけなことよ。

だけど、そのたった1分で人間は、随分自分勝手な住人になつてくるような気がするのである。

「自分だけのことを考え、より便利で暮らしやすくしようとしたことは、ほんとうに人間のために、地球のためによかつたのでしょうか」と問いかける本文に共感する。

(辻友子)

日本〈汽水〉紀行

「森は海の恋人」の世界を尋ねて

島山重篤著 文藝春秋 2003年

3月11日、東北地方が大きな地震と津波に襲われた、と知った時、ある人の安否がとても心配になりました。その人の名は島山重篤。宮城県気仙沼で牡蠣の養殖に携わる漁師です。彼との初めての出会いは5～6年前の日経新聞夕刊誌上でした。半年の間、巧みな文章も合わせ魅力的な内容に週一回の逢瀬が待ち遠しい程でした。その彼の著書の一つがここで紹介する『日本〈汽水〉紀行「森は海の恋人」の世界を尋ねて』です。

この本では海の水と川の水の混じる水域、つまり〈汽水域〉に関して、気仙沼に始まり日本各地を彼が尋ねた時の様子が語られています。どの〈汽水域〉にも共通しているのは、棲息する魚介類の多い豊かな海に流れ込む川の上流には広葉樹の多い豊かな山がある、ということです。

落葉した広葉樹の葉は積もり分解され、その森の腐葉土層に降った雨は、そこを通過する時に海の植物プランクトンを育てる養分をたっぷりと含みます。その中には、海の中に自然の状態では存在できない大切な鉄の化合物(フルボ酸鉄)を含んでいます。その水が川となり、流れ流れて海に注ぎ込んで行き、植物プランクトン～動物プランクトン～小魚～大型魚と言う食物連鎖が進みます。植物プランクトンは魚だけでなく、ワカメや昆布などの海藻類や牡蠣や帆立などの貝類も育て、豊かな漁場となって行くわけです。

お正月の鯛も蛤も、春のイカナゴも、夏の蛸も、出汁を取る昆布も鰹節も海からの贈り物です。四方を海に囲まれて暮らす私たち日本人にとって、海はどれ程大切なものか、そしてその海の幸を育ててくれる養分は森からの贈り物だ、ということがこの本から強く伝わってきます。

島山氏ら、気仙沼湾で漁業を生業としている方々は、毎年上流域の山に櫟、樺、檜など多種の広葉樹を植樹して来ていると言う事です。今年も6月初旬震災の痛手が深い中、植樹祭を行った、と言う報道がありました。今までに植えてきた樹々からの恵みが三陸の海に注ぎ込み、以前の様な豊かな海が戻ってくることを願って止みません。

最後になりましたが、島山氏を産み育てられた御母堂小雪さんは、この震災で93年の生涯を閉じてしまわれたとのことです。ご冥福をお祈りして結びしたいと思います。

(増井和子)



鉄は魔法つかい

命と地球をはぐくむ「鉄」物語

島山重篤著 スギヤマカナコ絵 小学館

2011年6月6日初版第1刷発行

出産を間近に控えた二女がやや貧血気味だという。そういえば私も人間ドッグの診察で赤血球の数が少ないことを指摘されていた。そこで取り上げられている体内に補給すべき鉄分と、金属の鉄とを全くの別物として捉えてきた私は、島山重篤著『鉄は魔法使い 命と地球をはぐくむ「鉄」物語』との出会いに青天の霹靂のような驚きを覚えた。古来鉄がどのように利用されてきたかについて関心はあったものの、宇宙的な規模や地球の構造といった側面で捕らえたことはなかったし、ましてや著者が推し進める「森は海の恋人」の運動の要に、魔法のような役割を果たす鉄の存在があるとは...！著者の探究心は留まることを知らず、さまざまな分野におよび、人々を巻き込みながら着実に運動を広げていく過程はページをめくりながらどんなにわくわくさせられたことか。

だが、何よりも心に残ったのは、脱稿直後の3月11日東日本大震災に遭遇した著者が大津波によって60年も続けてきたカキ養殖場ばかりか、運動の良き理解者であった母をも失った中で本書を出版したことである。「東北再生への希望」と題した前書きで彼は述べている。「大津波によって海が壊れたわけではないのです。生きものを育む海はそのままなのです。森・川・海のつながりがはっきりしていて、鉄が供給されれば、カキの養殖は再開できる。そう思ったとき、勇気がわいてきました。」と。この再生実現は決して容易ではない。本書を読んだ私たちがどのように行動を起こすかにかかっているのではないか、そういった意味で痛切な祈りがこめられているのではないのかと受け止めている。

(杉原 由紀枝)

レファレンス・サービスを利用して

ある日、いつものようにおもしろそうな本はないかと書架の間を歩いていると、『図書館のプロが伝える調査のツボ』という本が目にとまりました。図書館員による調べものをテーマにして、調べ物のツボや楽しさを事例を通して、わかりやすく解説している本で、行き詰まった時の発想の転換など読み物としてもおもしろいものでした。目次には、こんなことも調べることができる！と思うものも多く、いつか機会があればこのサービスを利用してみたいと思っていました。

そんな時、長年参加している児童文学の読書会の課題本の感想を書くことになりました。課題本は『ほこりまみれの兄弟』（サトクリフ作）です。読書会当日は担当者が下調べをし、作者のことや、その他の作品などについて解説し、他の参加者は感想を述べます。そして後日、感想を提出することになっています。サトクリフの作品の中でもこれは初期のもので、植物や動物、昆虫などの名前がたくさん書かれていて、そのことが気になりなかなか物語に入っていけず、読むのに苦労しました。担当者は年少の子供向けに、教養として名前を教えるようなあるいは読者が名前を覚えるという効果を期待していたのでは...、という見解でした。感想を書くにあたり、自分なりに「何故こんなにも多くの植物を描写したのか」を考えてみようと思いました。

そこで「レファレンス・サービス」を利用しようと思ったのですが、いざ相談しようとする、どのように尋ねればいいのか...。あまりにも漠然とした「16世紀頃のイギリスの植物を知りたいのですが...。」で大丈夫だろうかと思いつつ、他に言葉も見つからず。このようなあいまいな相談に対して、司書の方は、まず今左京図書館にある本を紹介し、中央図書館にも参考になる本はないか尋ねてくださることになりました。しばらくして連絡があり、図書館に行くとして10冊以上もの本を揃えてくださっていました。その中から、必要な本を借りて帰りました。これらの本を読んでいるうちに、感想の焦点も定まってきた、無事書き終えることができました。北ヨーロッパの植物相、シェイクスピア劇における花の使い方、「もの」をキーワードにした事典...、思いもかけず様々な本に出会えました。そして、表紙に書かれた「ツルニチニチソウ」が

いかに物語において大切なものであったかも、自分なりに納得することができました。

今回レファレンス・サービスを利用するきっかけとなった『図書館のプロが伝える調査のツボ』はあかね市立図書館（架空）を舞台とした3部作の3冊目で、1冊目は『図書館のプロが教える<調べるコツ>』です。1冊目には、調査の流れが質問ごとに文章と図で書かれていて、基本的な用語の説明もあります。OPACやインターネットも有効活用し、質問者に満足のいく回答をしています。その誠実さが図書館の信用であり、経験が司書の方にとって大切であると書かれています。

『図書館のプロが伝える調査のツボ』は、上級編という印象で、「調べる」ことの深さや魅力を強く感じました。

京都市図書館のホームページにも「レファレンス事例紹介」の項目があり、そこには様々な質問に対しての丁寧な回答例が数多く掲載されています。そのようなことも知らずに、今まで図書館に通い、蔵書検索だけで満足していたなんて...もったいないことをしたと思います。今後はレファレンス・サービスを利用する前には「知りたいことは何であるか」を明確にして、利用上手、調べ上手になりたいと思っています。
(北園裕子)

◆図書館のプロが教える<調べるコツ>

浅野高史著 柏書房 2006年

◆図書館のプロが伝える調査のツボ

高田高史編著 柏書房 2009年



けやきの活動 11年3月～8月

- | | | |
|---|--|---|
| 3/2 「図書館で発表会」後片付け | 5/25 左京区ボランティア連絡会出席
(増井・永井) | ・3/26.5/28.6/25.7/23 (第4土曜)
図書館おたのしみ会に協力 |
| 3/16 「えほんのひろばinきょうと」追加本
検討会 | 6/6 第13回定期総会
第7回図書館懇談会 | ・3/11.4/22.5/27.6/24. 7/8
(第4金曜日、3.7.9月は第2金曜日) |
| 3/24 ニュースレターNo.35 印刷発送
左京図書館子ども読書の日記念事業
チラシ印刷 | 6/中旬～ ニュースレターNo.36
原稿作成・編集 | 絵本学習会
・3/7.4/4.5/8.7/6.8/8 (主に第1月曜) |
| 4/22 「えほんのひろばinきょうと」の準備
絵本の読み合わせと配架の準備
面展の搬入 | 7/3.4 醍醐中央図書館・左京図書館で
「指定管理者制度と図書館」に関する
学習会のための資料収集 | 事務局会議
図書館とのミーティング
・3/3.10.17.24. 4/7.14.21.28. 5/12.19.26.
6/2.9.16.23.30. 7/7.14.21.28. 8/4
(毎週木曜日10:30-12:00) |
| 4/23 こども読書の日記念おたのしみ会に
協力 | 8/8 ニュースレターNo.36印刷・発送
(図書館主催行事には協力) | 絵本コーナーで「赤ちゃんに絵本を」
サポーター活動 |
| 4/23.24 「えほんのひろばinきょうと」開催 | | |
| 5/9 総会・図書館懇談会の案内、活動報告
印刷・発送 | | |

けやきの 本棚 36

私の
おすすめの本

ウエズレーの国

ポール・フライシユマン作
ン・ホークス絵 千葉茂樹訳
あすなる書房 99年

かわった男の子のウエズレーが夏休みの自由研究に自分だけの作物をそだてることにしました。そして、その植物をサルーシュと名づけ、食べたり、服を作ったりします。自分よりせが高くなったら、ジャングルみたいです。いろんな生き物やこの町の子も集まってきてにぎやかです。ぼくの家にもこんな庭がほしいです。この植物のたねは、どこからきたのかふしぎです。

(小3・松田崇寛・松ヶ崎)

やまんば山の

モッコたち

富安陽子作 降矢奈々画
福音館書店 86年

降矢奈々さんの挿絵が素敵なこの本。やまんばと、娘のまゆと、人間の子啓太の山のおはなしです。肝っ玉かあさんのやまんばは、みんなを温かく、キッ

パリ守ってくれます。そして作ってくれる山の幸料理のおいしそうなこと！クルミの蜂蜜煮・木いちごのジャム・キノコのクリームスープ・とびきりのヤマモモのお酒などなど…読むと必ずおなかのへる一冊です。

(左京図書館・加藤)

エネルギー

たくさんふしぎ

2011年6月号

池内了文 スズキコージ絵
福音館書店 11年

エネルギーとはそもそも何なのか、というところから話が始まります。熱や振動、光もエネルギーの様々なあらわれ方の一つ。エネルギーは運動から運動、運動から電気にと姿を変えてものからものへと渡されて行く。無駄になつたものも全て集めたら、元々あつたエネルギーの量になる、つまりエネルギーの総量は変わらないということも教えてくれます。エネルギーのおおもとを辿ると、太陽から宇宙の始まりに行き着く。私たちの暮らしはもちろん、体内でも生命を維持するために使われているエネルギー。それは実は宇宙全体の中にかかわり合つてやり取りしているものである。こんな大きな視点を与えてくれる絵本です。

(会員・Ma・北白川)

今年度のけやきは 指定管理者制度について学ぶ年に

図書館友の会けやき総会と図書館懇談会 2011年6月6日

2010年度けやき総会

6月6日、来賓として、横山左京図書館長、吉田区社協事務局長お二人をお迎えして、「2011年度図書館友の会けやき」の総会を行いました。

横山館長から「京都市の図書館利用者は右肩上がりが増えているが、左京図書館は高止まりの状態にある」旨の報告がありました。今までは左京図書館も右肩上がりでした。左京図書館は中央図書館として存在しても不思議ではない程利用者の多い図書館ですので、総数として少ない訳ではありません。「図書購入費や運営費の削減や指定管理者制度の問題も抱えているが、多くの方に図書館を知ってもらえる様アピールをして行きたい。」との館長の姿勢も伝えていただきました。2月に初めて企画した「図書館で発表会」などの様に、私たち「けやき」もお手伝いが出来るようにして行きたいと思えます。そのためには、他の「友の会」の活動を知ることも大切です。また、事務局メンバーにももう少し多様性があると膨らみが出てくるのですが…。若い方の参加もお待ちいたしております。

吉田事務局長からは、ボランティア団体への助成金原資の総額が減少している問題が取り上げられました。また、それを如何に公平に配分していくか、と言うことから、新規団体への助成やオープン報告会の開催を行っているとの報告がありました。「けやき」も日赤共同募金を原資とする助成金を毎年受け、ニュースレターの印刷と発送に充てさせて頂いています。少しでも有効に活用出来るよう、多くの方々に楽しく読んで頂けるニュースレターに行きたいと思えます。読後の感想や御意見など左京図書館もしくは事務局へお届けいただけると励みになります。

来賓のお二人が退出された後、2010年度の活動報告、会計報告が承認され、2011年度の活動方針としては、横山館長のお話にもあった指定管理者制度について私達も勉強して行く、と言う一項目が加えられて2011年度の「図書館友の会けやき」の活動がスタートいたしました。(増井)

図書館懇談会

総会后、横山館長、高井司書に出席していただき、今回で7回目となる、図書館との懇談会がもたれました。まず、館長・司書に左京図書館の様子を話していただきました。

(横山館長)

・利用状況は全市的には少しずつ増加、左京図書館は高止まりの状況です。

入館者数は1日平均850~900人で、多いときは1300人ということもある。レファレンスなど遠慮されるのではないかと心配している。

・書架への返却作業は1日に5回程度行っているが、作業に追われている。返却や書架整理は、ボランティアの方に助けていただいて何とかできているのが現状。

・図書購入費は維持、運営費は減少、工夫してなんとかしたい。

・「図書館で発表会」に出展してもらえるかと思ったが、力作が展示され、利用者にも関心を持ってもらえた。

・職員の異動があり、慣れないこともあるかと思うが、よろしく願います。

・「けやき」の皆様や図書館ボランティアをはじめ、多くの方々に支えていただきありがたく思っている。がんばっているの、引き続きご支援をお願いします。

(高井司書)

・忙しいですが、日常のカウンターでの業務のほかに、一人ひとり何が出来るか前向きに考え考え取り組んでいます。例えば、

- 月ごとの展示コーナー、季節・日々の出来事に合わせて対応した情報提供～9月は生物多様性について・井上ひさしさんなど追悼コーナー・現在は震災・防災について図書館蔵書の良い資料が提供できる場であると考え取り組んでいる。

- YA(ヤングアダルト)コーナー～人気コーナーで、幅広い層の方に利用されている。

- 京都関連・地域情報の掲示発信(ポスター掲示版)～新聞記事などコピーもできる。

です。書架整理は図書館の現状を知るためにも大切な業務なので、司書もがんばりたい。

・レファレンスに力を入れている。レファレンスを受けた項目は中央図書館へ集約し、バックアップしている。貸し出し、書架案内におわれ、「いつでもレファレンスをどうぞ」という雰囲気になっていないかもしれないが、レファレンスを受けることは司書のスキルアップになると考えている。

・インターネットサービスによる、利用者の変化が見られる。図書館へきて、楽しむというのではなく、予約した本を受け取りに来るだけということもある。夜間はこれまで静かで、ゆとりもあつたが、今は仕事帰りに予約した本を取りに来る人が増えている。

・マナーに関する苦情がある

けやき会員からは次のような要望が出ました。

・赤ちゃん絵本の複本を置いてほしい。保健所の検診の場で赤ちゃんへ絵本をと呼びかけ、その受け皿として、左京図書館で「赤ちゃんに絵本を」サポーターの取り組みがされていることを誇りに思っ活動している。赤ちゃんが気に入った本を借りて帰りたいのに、貸し出し中でその本がなく貸してあげられないことがある。大人なら理解できるだろうが、子どもには理解できないし、気に入った本が借りて帰れることでこの取り組みが生きてくる。赤ちゃんサポートに職員の方も入っていた
だき、実情・ニーズを知ってほしい。

・YAコーナーは大人も興味を持つてのぞくことがある。館内に座れる場所が少ない。椅子を増やしてほしい。

・左京図書館がもっと広くなり、職員も増えたらいいなと思う。身内の者が今回の震災地にいる。身の回りが落ちてきてきたとき、活字が読みたいと思ったという。本の力の大きさ、本で安らぎを得ることができる。図書館の重要性を再確認した。さらに市民に近づきやすい図書館へとなることを希望したい。

館長の「図書館存在の意味の大きさを感じています。また行きたいと思う図書館を目指したい。」の発言を最後に、今回の懇談会は終了しました。（記録 田中）

<追記>

赤ちゃん絵本の複本の要望について、懇談会で館長から現状の仕組みでは赤ちゃん絵本を複本で用意するのは厳しいとの見解が示されましたが、懇談会の後けやきの事務局会議でも話し合い、7月の図書館とのミーティングでけやきから以下のことを要望しました。

「赤ちゃん絵本が予約されることは少ないので、特に人気のある10冊程度の本はぜひ複本で購入していただきたい。また、これらの本は赤ちゃんの誕生時にプレゼントされ成長後家庭で眠っていることも多いので、図書館で寄贈を呼びかけて欲しい。」この件については図書館でもみなさんと妙案を検討中とのこと、赤ちゃんのお気に入りの本がスムーズに借りて帰ってもらえるようになれば本当にうれしいですね。（永井）

「図書館と指定管理者制度」について、学び・考える本

近年多くの公共施設に指定管理者制度が導入され、全国の公共図書館でも指定管理者によって運営されているところが、知らないうちに、着々と増えています。今年度けやきは、公共図書館と指定管理者制度について、市民利用者の立場から、学び考えていくことになりました。まずとっかかりとして、この秋に以下の本などを参考に読書会を数回開きます。

図書館で「指定管理者制度」で検索してみると、自治体から指定管理者に指名されるためのノウハウを書いた本が多いことにも驚きましたが、「図書館と指定管理者制度」について、様々な立場から論じた本をピックアップしました。他にも「この本参考になるよ」と言うものがありましたら、ぜひ事務局までお教え下さい。

読書会へのご参加希望も事務局まで。

「構造的転換期にある図書館」日本図書館研究会 10年
「変革の時代の公共図書館」勉誠出版 08年
「市場化の時代を生き抜く図書館」時事通信社 07年
「新しい公共を担う人々」岩波書店 10年
「公共図書館の玄関に怪獣がいる」
京都大学図書館情報学研究会 09年
「官製ワーキングプアを生んだ公共サービス「改革」」
自治体研究社 08年
「ず・ぼん14 特集 指定管理の現場」ポット出版 08年
「博物館の仕事」岩田書院 07年
「自治体の市場化テスト」学陽書房 06年
「自治体における指定管理社制度導入の実態」
日本産業消費研究所 06年
「指定管理者制度—文化的公共性を支えるのは」
時事通信出版局 06年
「最新事例指定管理者制度の現場」学陽書房 06年

けやき情報板

左京南支部小学校ボランティア 読み聞かせ交流会

第1回 9月5日(月)

講義「絵本入門」

中川あゆみさん

第2回 9月12日(月)

講義

「絵本の選び方・読み方」

左京図書館司書さん

ブックトーク

「科学の本のブックトーク」

島崎真紀子さん

第3回 9月16日(金)

小グループにわかれて

絵本の読みかたりの実践交流

◆いずれも午前10時～12時

左京合同福祉センター内

左京図書館の上階3階会議室にて

◆絵本の読みかたりを始められたばかりの方も、ベテランの方も、楽しく学び交流しましょう。

◆第1回と第2回は、小学校以外で活動しておられる方や活動はしていないが絵本に興味関心がある方も参加していただけます。ぜひ気楽にご参加下さい。事前申し込みは不要です。当日直接会場にお越し下さい。

☐☐☐ 図書館友の会けやきの仲間になりませんか ☐☐☐

知りたい、調べたい、本の世界を楽しみたい
そんな私たちの望みをかなえ、
一人一人の世界を豊かにしてくれる場所。
それが私たちの願う図書館です。

左京図書館が今後もこのような市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと1999年に「けやき」立ち上げました。図書館のスタッフとともに、左京図書館はじめ京都市図書館を支え、育てていきませんか。

次のような活動をおこなっています

であいの森

左京図書館のおたのしみ会（毎月第4土曜日11:00～）に協力。絵本を読んだり、ブックトーク・人形劇やおはなしも。

「赤ちゃんに絵本を」サポーター

毎週木曜日10:30～12:00、左京図書館絵本コーナーで絵本探しのお手伝いをしたり、絵本を読んだりしています。

誰もが利用できる図書館を考える

図書館の現状を調べたり、図書館に提案をしています。

ニュースレター編集部

友の会のニュースレター「けやき」を作成し、図書館と利用者をつなぐけやきの活動の情報を発信しています。

事務局

けやきの活動の企画提案。図書館行事に企画・協力。各グループ間や左京図書館との連絡調整を行っています。

絵本学習会

毎月第4金曜日10:00～。取り上げた絵本をみんなで読み合い語り合う楽しい学習会です。

講演会・学習会

主催または図書館との共催で年に数回、地域の講師を中心に様々な興味深い講演会・学習会を行っています。

ぜひ、あなたの図書館への思いをかたちに、
けやきの仲間になってください。

◆入会希望の方は、年会費500円をそえ下記事務局または郵便振込口座にお申し込みください。

事務局 京都市左京区高野東開町1-23 26-101 永井方

TEL/FAK 075-721-2625

郵便振込口座 口座番号 00920-8-156914番

口座名称 図書館友の会 けやき

年会費はニュースレターの印刷および郵送料の一部に充当します。

◆活動費のカンパも歓迎します。直接又は上記の振込口座をご利用下さい。

か手存館すの涼助はれやはう▽ぎさのでしたにい虫▽
。立しでるでをか、て奈まに電るを生暮ず体体成のセ
てな本よは求っおい良っ押力力思活らつをを虫背ミ
をくをり！めて陰たのびし会をうがし伸持出が中の
せて開は？来いで電親ら付社感と始てびちし現が羽
ひもきこ個館ま今車元でけのじ共まよて上てれが化
探暮原れ々さす年内にすら都まにりう。げ行、割を
しらすものれ。はの通がれ合し、まや数るきのれ見
てし力節家る図ほ過う、るでたセすく年とまけてま
みて発電庭方書ど刺度毎、脅。ミ。短間、すぞ、し
まい電、でも館ほな悩夏節し（にはい土羽。る白た
りせけに図冷多へど冷ま大電のきみか地のがぐよっ。
り）んる依書房いもで房さ阪「よ」なな上中少っうば幼

編集後記

◇けやき 第36号 2011年8月8日

◇制作 図書館友の会 けやき ニュースレター編集部

題字 高野のYさん タイトルバック 岩倉のSさん

カット 高野のHさん

◇発行 図書館友の会 けやき

京都市左京区高野東開町1-23-26-101永井方

TEL/FAX 075-721-2625